

平成 21 年度東京都写真美術館収蔵展

# 木村伊兵衛と アンリ・カルティエ＝ブレッソン

東洋と西洋のまなざし *Ihee Kimura & Henri Cartier-Bresson: Eastern Eye & Western Eye*

開催期間 2009年 11月 28日（土）～2010年 2月 7日（日）

会場 東京都写真美術館 3階展示室

主催 東京都 東京都写真美術館／朝日新聞社

協力 横浜美術館／マグナム・フォト東京支社／フォト・ギャラリー・インターナショナル



左) アンリ・カルティエ＝ブレッソン「サン＝ラザール駅裏、パリ」1932年©Henri Cartier-Bresson/Magnum Photos、右) 木村伊兵衛「パリ、地下鉄入口」1955年

## 開催要項

木村伊兵衛（1901～1974）とアンリ・カルティエ＝ブレッソン（1908～2004）は、日本とヨーロッパと活躍した場は異なりますが、ともに近代的写真表現を切り拓いた写真家として重要な存在です。この二人は、ともに「ライカ」というカメラを人間の眼の延長としてとらえ、揺れ動く現実の諸相を切り取り、それまでになかった新しい「写真」のあり方を証明したといえるでしょう。二人の作品には普遍的ともいえる共通性を見て取れますが、その一方で、日本とヨーロッパというそれぞれが生きた現実の違いも、微妙ではありながら決定的な差異として見て取れることも重要な事実です。

本展では、木村伊兵衛とアンリ・カルティエ＝ブレッソンという偉大な二人の写真家の個性を堪能するだけでなく、近代的写真表現が絶対的普遍的でありながら、同時にいかに個別的相対的なものであったということを見ようとするものです。木村伊兵衛作品は東京都写真美術館のコレクションを中心に、またアンリ・カルティエ＝ブレッソン作品は当館のコレクションを中心に国内各美術館の所蔵作品も含め、全体で 153 点をご紹介します。

## 展覧会の見どころ

### ①木村伊兵衛とアンリ・カルティエ＝ブレッソン、偉大な二人の写真家の視点と接点とは？

日本とフランスを代表する写真家として世界的に活躍した二人は、写真という表現に、どのような視点で取り組んだのでしょうか。幾何学的に対象を配置し、整然と美しいフレーミングにこだわったアンリ・カルティエ＝ブレッソン。一方、木村伊兵衛は人と人の関係を重視し、日常の瞬間としての表情やしぐさを豊かに捉えました。街角や人物などテーマやシチュエーションが同様の作品では、特にその違いや共通点がはっきりと見て取れます。また、1954年に渡仏した木村はカルティエ＝ブレッソンと接点を持ちます。ともにパリの街に繰り出し、スナップショットを撮ったという二人は、どれほど触発しあったのでしょうか。



左上) アンリ・カルティエ＝ブレッソン「マルヌ河畔で、フランス」1938年  
©Henri Cartier-Bresson/Magnum Photos

右上) 木村伊兵衛「秋田市、仁井田」1953年

左下) 木村伊兵衛「北京、店頭にて」1965年

右下) アンリ・カルティエ＝ブレッソン「北京」1948年

©Henri Cartier-Bresson/Magnum Photos



この展覧会は、二人の作品を見比べるというだけではなく、それぞれの作品における豊かな表現の神髄をご堪能いただきながら、近代的写真表現のあり方を考えるものです。複雑な時代背景にもかかわらず、写真家として人間として、ともに意識をしながらも、それぞれの表現を極めた二人の写真家の軌跡をお楽しみください。

## ②代表作から希少なプリントまで、豊かな作品群を堪能。

今回の展示では、アンリ・カルティエ＝ブレッソン「サン＝ラザール駅裏、パリ」(1932年)や木村伊兵衛「永井荷風」(1954年)などの有名作・代表作から、木村が1954年にパリを撮影したカラー作品や、カルティエ＝ブレッソンがパリで撮った木村のポートレートなどの希少な作品まで、バラエティ豊かな作品153点をご紹介します。木村伊兵衛作品は、500点余を誇る東京都写真美術館のコレクションより選りすぐった91点を、アンリ・カルティエ＝ブレッソン作品は国内各美術館の所蔵作品も含め62点をご紹介します。



木村伊兵衛 「永井荷風」 1954年

## ③コンタクトプリントを参考資料として初展示

この展覧会では、参考資料として木村伊兵衛とアンリ・カルティエ＝ブレッソンのコンタクトプリント(撮影フィルムのベタ焼き)を初公開いたします。木村伊兵衛は代表作「本郷森川町」(1953年)や「パリ、地下鉄入口」(1955年)を含むモノクロ作品のコンタクト・プリントを展示。また、アンリ・カルティエ＝ブレッソンのコンタクトプリントが公開されるのは日本初となります。



木村伊兵衛 「本郷森川町」 1953年

## ④作品発表当時の写真集や雑誌を多数展示します

作品が発表された貴重な資料として、アンリ・カルティエ＝ブレッソンの写真集『決定的瞬間 (Image a la sauvette)』(1952年)や『LIFE』などの雑誌、木村伊兵衛の写真集『木村伊兵衛傑作写真集』(1954年)や『光画』『アサヒカメラ』などの雑誌を多数展示いたします。

アンリ・カルティエ＝ブレッソン 左)「ラークィラ・デリ・アブルツィ、イタリア」1951年、右)「画家・彫刻家アルベルト・ジャコメッティ」1961年

©Henri Cartier-Bresson/Manhattan Photos



## 作家紹介

**木村伊兵衛**（きむら・いへえ、日本、1901-1974）



アンリ・カルティエ=ブレッソン  
「木村伊兵衛」1954年

©Henri Cartier-Bresson/Magnum Photos

1901（明治34）年12月12日、東京市下谷金杉上町（現・台東区上野）に生まれる。19（大正8）年、京華商業学校卒業。20年、台湾の砂糖問屋で働く傍ら、近くの写真館に出入りして、営業写真の技術を習得。22年に帰京。24年、東日暮里に写真館を開業。23年に浅草のヤマト写真クラブ、24年に並木写友会などのアマチュア写真クラブに入会し活躍。30（昭和5）年、花王石鹸の長瀬商会広告部に嘱託として入社、この頃より下町のスナップ撮影を始める。32年、野島康三、中山岩太と『光画』を創刊。33年、名取洋之助の設立した日本工房に参加するが、翌34年に脱退し、伊奈信男、原弘らと中央工房、国際報道写真協会を設立。36年、中山と満州（中国東北部）を取材。37年末より外務省の依頼で渡辺義雄と共に中国に派遣され、上海方面を撮影。41年、東方社の写真部責任者となり対外宣伝グラフ雑誌『FRONT』の撮影にあたる。46年に文化社解散後、47年にはサン・ニュース・フォトスに写真部主任として入社。50年、日本写真家協会の初代会長に就任。52年『カメラ』の月例審査を土門拳と共に担当。55年に第3回菊池寛賞、56年に第6回芸術選奨文部大臣賞を受賞。63年、フォトキナの「今世紀の大写真家展」に選ばれる。65年、第9回日本写真批評家協会作家賞受賞。68年、紫綬褒章を受章。74年5月31日死去。従五位勲四等旭日小綬章受賞。（東京都写真美術館叢書『日本写真家事典』2000年、淡交社より）

**アンリ・カルティエ=ブレッソン**（フランス、1908-2004）

1923年頃から絵画とシュルレアリストに傾倒し、1927年から一年間アンドレ・ロートに絵画を学ぶ。その後アフリカの象牙海岸で一年過ごし、フランスに帰国後写真を始めようになる。1932年、それまでの作品を写真集と展覧会で発表。1934年、民族学調査隊に加わり一年間メキシコで過ごした後、アメリカに移り映画を学ぶ。ドキュメンタリー映画のプロダクションでジャン・ルノアールのもとで働き、後に独立。1940年から43年までドイツ軍の捕虜になるが、脱走に成功し、フランスのレジスタンス活動に参加。その後ドキュメンタリー映画『ル・ルトゥール』を制作する。1947年、ロバート・キャバラと写真家集団『マグナム・フォト』を設立。1948年から50年まで東アジア



木村伊兵衛「アンリ・カルティエ=ブレッソン」1954年

に滞在し、写真活動を行う。1952年写真集『決定的瞬間』を発表し、世界中の写真家に大きな影響を与えた。1955年パリを皮切りに世界中で回顧展が開催された。1966年よりマグナムの寄稿写真家になる。1969年から70年までアメリカのテレビ局の為にドキュメンタリー・フィルムを制作。1970年代半ばより、デッサンや絵画に時間を費やすようになり、1975年初めて絵画の展覧会を開催する。1987年には、ニューヨーク近代美術館で大規模な写真展が開かれた。1999年、新作を含む写真展『ランドスケープ二度とない風景』を東京で開催。2003年パリにて大回顧展を開催し、集大成の写真集も出版。同時期にアンリ・カルティエ＝ブレッソン財団を設立。2004年8月3日9:30AM南フランスの自宅にて死去。95歳（マグナム・フォト東京支社公式ホームページより）

## 本展の関連事業

### ■担当学芸員によるフロアレクチャー

第2、第4金曜日 16:00～

※展覧会チケットの半券（当日印）をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

### ■新春特別フロアレクチャー

2010年1月2日（土）・3日（日） 16:00～

※展覧会チケットの半券（当日印）をお持ちの上、会場入り口にお集まりください。

### ■関連上映作品

本展に関連して、1階ホールにて映画を上映します。

上映作品：『アンリ・カルティエ＝ブレッソン 瞬間の記憶』

上映期間：2010年1月2日（土）～1月15日（金）

※1月7日（木）、8日（金）、14日（木）、15日（金）の上映最終回には、担当学芸員によるトークが予定されています

※料金・上映時間などの詳細は東京都写真美術館 03-3280-0099 までお問い合わせください

## 展覧会カタログのご案内

本展の開催に合わせ、展覧会カタログを刊行いたします。

『木村伊兵衛とアンリ・カルティエ＝ブレッソン』

作家年譜、展覧会担当者のエッセイを含め、出品作品より図版100点を掲載しています。

価格：2,200円（税込み）

※当館ミュージアムショップ ナディッフ・バイテン（0303280-3279）にて発売します。

## ご利用案内

- 展覧会名** 木村伊兵衛とアンリ・カルティエ=ブレッソン  
東洋と西洋のまなざし  
*Ihee Kimura & Henri Cartier-Bresson: Eastern Eye & Western Eye*
- 会期** 2009年11月28日(土)～2010年2月7日(日)
- 場所** 東京都写真美術館 3階展示室  
〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内  
ホームページ [www.syabi.com](http://www.syabi.com) 電話 03-3280-0099  
JR恵比寿駅東口より徒歩7分/東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩10分
- 主催関係** 主催＝東京都 東京都写真美術館/朝日新聞社  
協力＝横浜美術館/マグナム・フォト東京支社/  
フォト・ギャラリー・インターナショナル
- 開館時間** 10:00～18:00(木・金は20:00まで) 入館は閉館30分前まで  
(ただし、2010年1月2日と3日は11:00～18:00)
- 休館日** 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)  
年末年始(2009年12月28日(月)～2010年1月1日(金・祝))
- 観覧料** 一般700(560)円、学生600(480)円、中高生・65歳以上500(400)円  
※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※( )は20名以上の団体料金  
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料  
※65歳以上の方は第3水曜日無料
- 交通機関** 東京メトロ日比谷線恵比寿駅・JR恵比寿駅東口改札より徒歩約7分  
当館には駐車場がございません。お車でご来館の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。

## お問い合わせ先

東京都写真美術館 事業企画課

<展覧会担当> 金子 隆一、中村 浩美、山崎 尚之

<広報担当> 久代 明子 [a.kushiro@syabi.com](mailto:a.kushiro@syabi.com)、前原 貴子 [t.maehara@syabi.com](mailto:t.maehara@syabi.com)

電話：03(3280)0034 FAX：03(3280)0033

### <プレス用図版について>

このリリースに掲載されている図版を、プレス掲載用にデータにてご用意しています。  
ご希望の方は上記広報担当までお問い合わせください。

○図版使用にあたっての注意

- 1) 写真作品はノトリミング、文字がけなし、装飾なしでご掲載ください
- 2) アンリ・カルティエ=ブレッソンの作品には、©Henri Cartier-Bresson/Magnum Photosのクレジットを必ず明記ください。
- 3) 同一媒体に2点以内でご掲載ください。特集ページなどで2点以上をご使用の際は、別途ご相談ください。
- 4) 本展覧会紹介以外での図版の使用はできません。必ず展覧会名、会期、会場等を明記してください。
- 5) 校正段階で広報担当に内容の確認をお取りください。
- 6) 掲載紙を広報担当宛にお送りください。